

## 自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念「ほっとハウスのおひさまの暮らし」を玄関、事務所に掲示し共有出来るようにしている、また全体会議、内部研修、個人面談等折りに触れて理念について確認している。	○法人のパンフレットやホームページ等に設置者の事業への熱い思いが伝わってくる基本理念「おひさまの暮らし」が明文化されTました。また、事業所玄関にも、社訓と基本理念が掲示され、毎年度1回以上施設長による職員への説明もされて、職員全体の周知共有が図られていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会より地区の防災訓練に声をかけて頂き参加している。夏祭りには地区の方々より大勢参加頂き、区の夏祭りに呼んで頂いた。また中学生の職場体験学習や福祉校の学生、保育園児との交流、ボランティアの方々との交流がある	○ほっとハウスほたかの家は、大型スーパーの跡地に立地していて、事業所の周囲は広い駐車場があり、事業所の毎年の夏祭りには、会場として活用され、地域の多く子どもや住民も参加し盛大に行われています。また、地域のイベントには、利用者、職員も招待され交流を深めていました。	○管理者・職員は、地域との付き合いを大事にする意識が高く、保育園や小中高生との交流も積極的に実践されていました。今後は、防災の協力体制を含めた、地域との連携・交流をより一層進めていただくことを期待致します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの施設申込み、見学者 又行事ボランティア等に折りに触れて認知症の理解と認知症を持つ家族の悩み相談や支援方法の話をする機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し行政・区長・民生委員・家族代表が参加され、施設・利用者の現状と状況を説明させて頂き、皆さんから意見・要望・アドバイスを頂いている。今年度より身体拘束等廃止委員会として貴重な意見を頂きサービス向上に活かしている。	○運営推進会議は、年6回定期的に開催され、毎回管理者から運営状況や課題、利用者の状況等について、資料等で詳しく説明されていました。また、家族代表の委員からの質問や提案等にも丁寧に対応していることを会議録や管理者・職員インタビューでも確認できました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、介護認定調査など行政の方が来所した折に事業所の日頃の様子をお知らせしたり、見て頂いたりして、情報交換をしている。	○運営推進会議には、市役所の担当職員が毎回出席し、詳細な事業所の状況を把握し、地域の対象利用待機者の情報を共有しながら、緊密な協力体制が構築されていました。	

6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や勉強会を行い意識の共有化を図り身体拘束禁止を学び日々の言葉や拘束等を含め互いに注意しあっている、玄関の施錠はしない事を常とし、やむを得ない場合は、スタッフの連携の中で開放に努めている。	○身体拘束廃止委員会が、マニュアルに基づいて、適切に実施しており、運営推進会議でも毎回身体拘束の事例(身体拘束0)を報告しています。身体拘束に関する内部研修も年2回実施し、外部研修にも積極的に出席し、全職員の周知徹底がされていきました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法等について、内部研修で年間計画必須課題として勉強会を設け意識を高めている。実施例として入浴時等外傷の確認、報告、原因の明確化など、防止の徹底について強化に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、行政機関の行なう説明会に参加して、理解を深めている。又施設には制度を利用している利用者もおられる為、制度を理解して利用者が困らない様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に分かり易く説明し不安や疑問点については理解し納得頂けるよう説明し。入所後に於いても疑問や質問事項には常に説明に応じ理解して頂けるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や各種行事の内容を盛り込んだ「ユニットたより」を毎月一回発行し配布している。内容についての評価を、ご家族の面会時や家族会、敬老祭の折りに意見・要望を伺います。それを全体会議でも反映させている。	○運営推進会議には、家族代表や利用者も参加する仕組みがあり、会議内容や行事等についても各ユニットごとの便りで毎月家族にも情報の提供がされていきました。家族にはいつでも気軽に来所することを伝え、特に行事に来所した際には、積極的に意見や要望を聴く体制ができていきました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	平成28年4月より人事考課を導入し、職員は3回の自己評価をし、その後、面談を行っている。その個別面談で思い等を聞く機会を作ったり、全体会議、ユニット会議で意見が反映できる環境となっている。	○理事長は、毎年度職員全体会に出席し、理念や運営方針についての考え方を職員説明し、職員との話し合いが行われていきました。また、一昨年度から導入した人事考課制度により、目標管理の職員個別面談も行われ、管理者は、職員個々の意見や希望等も把握し、制度に反映する仕組みができていきました。	

12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事制度による賃金規程を作成し、個々の努力や実績、勤務状況により昇給、昇格を行い、各自が向上心を持って働ける仕組みがある。また定年退職後の職員も個々の雇用契約で延長しながら、経験を生かした働き方も取り入れている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行っている、研修テーマは、介護現場で必要な研修はもとより、当該ホームで必要とされる研修を随時取り入れている。外部研修も希望者は参加できるように働きかけている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当社グループの事業所の職員との全体研修に参加して交流を図ったり、外部研修などで他事業所の方との意見交換をできるようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人との面接を行い様子や性格等の把握に努めて、入所後 1 ヶ月程は特に様子を見守り関係性を大事にして、気持ちを引き出せるように努めて、情報の共有化を図り、安全・安心感に繋げている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも、家庭での習慣等を伺い、家での生活との違いを理解して頂きながら、家での暮らしに近い生活が継続出来るように努め、家族との不安や要望に添える様な関係づくりをし、希望によりお試し期間を設け家族の安心感に繋げている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に現状を十分にお聞きして、当ホームの説明と他の施設の違いを理解して頂き、状況により他の施設を紹介することも考えている。		

18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	笑顔と挨拶を大事に「自分らしく」利用者主体の支援により寄り添い、優しく、穏やかな暮らしが保てるよう、利用者との関係性に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の「おたより」に利用者の日常の近況や出来事や生活の様子をお知らせして、家族との一体感を失わないように努めている。面会に来られた折には気軽にお話ができるよう雰囲気づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友達等、一人ひとりの大切な人との繋がりが思い出が途切れないように支援している。家族や友人の面会は何時でも来て頂けるよう支援し開放している。	○各居室は、馴染みの品物等を持ち込めるスペースがあり、家族や友人が訪ねてきても、自室でくつろげる配慮がされていました。また、利用者の中には、お仏壇やご位牌を持ち込まれる方もいますが、全体的には、すっきりと整理されたお部屋が多いと感じました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し和やかに居心地の良い交流が自然に出来るよう配慮し雰囲気づくりに努め、孤立しがちな利用者には皆で楽しめるようなレクリエーション等を工夫しコミュニケーションが図れる関係を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設・事業所へ入所された場合でも家族にお会いする機会があれば失礼の無いように様子を伺ったり、その後も相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常の会話、生活状況の中から、又家族の面会時等に現在の生活についての思いや希望を伺う。困難な方には家族からの情報や表情、会話等から得て検討し、モニタリングしながらプランに繋げている。	○すみれ・れんげの両ユニット共に落ち着いた雰囲気の中で、職員も言動に余裕が感じられ、利用者一人ひとりへの関わりが和やかに行われていました。	

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人の意向を大切に特に家族にも生活歴・サービス利用歴等を聞かせていただき、これまでの暮らしの継続性とニーズの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その日の様子を観察・スタッフ同士の引き継ぎを大切に現状の把握に努めている。毎月実施しているケースカンファレンスで情報を持ち寄りスタッフで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成者とスタッフは、利用者の日常の様子の把握に努めて、ユニット会議で評価を行い介護計画の見直し改善をはかっている。本人・家族の意見がプランに反映できているかを、面会時等に伺い同意を得ている。	○両ユニットごとにケアマネージャーは、統一したアセスメント様式により、個々の利用者・家族のニーズ、職員の意見も反映させ、個別ケアプランを作成する仕組みがありました。また、モニタリングも定期的に適切に実施していることを個別ケア計画書で確認できました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録やケアプランの実施記録には、日々の気づきを書き入れスタッフ間で情報を共有し日々の実践や、介護計画等の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との関わり等本人の要望、思いを優先するよう取り組んでいる。業務に支障あるような場合は職員間の連携により業務内容の調整を図り臨機応変に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治区の区長・民生委員の方々の協力を得て地区公民館活動に参加し安全・安心な暮らしに協力を頂いている。保育園児との交流、地域の方からの野菜のお裾分けなど地域と利用者との関係づくりがある。		

30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の選択をして頂いている。適切な医療が受けられるよう家族にも協力をお願いしている。協力医は月2回往診し症状により随時往診も行う。また職員も情報を共有し、受診後の状態を伺い、必要に応じた対応をしている	○かかりつけ医は、馴染みある医療機関を自由に選択することになっていますが、遠方や家族の都合にも配慮して、事業所の協力医療機関も選択できるようになっていました。受診等に当たっては、家族と協力して担当職員が付き添い同行も行い、医療情報の共有がされていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に看護師が勤務をしている、利用者の健康状態を見る。必要に応じ随時対応されている。変化のある時には、電話などで相談し対応方法など教わりながら必要に応じた介護をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時本人の情報提供を行い安心して治療できるよう支援している。必要に応じて家族、医療機関との情報交換を行い、退院の目処については病院と確認し合い安心して早期退院受入れが出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針について、説明をして同意を得ている。利用者の状況に応じて、主治医・本人・家族と話し合いグループホームで出来る事を双方向での理解、納得の上共有し取り組んでいる。	○重度化や終末ケアについては、事業所の案内資料により、入居時に詳しく説明し、家族等の同意を得て、家族等と事業所・主治医と何回も話し合いを重ねながら実施されていました。	○看取りについては、職員インタビューで、夜勤時は不安に思うという声もありました。現状では制度の問題でもありますが、看護師等医療スタッフの適切な体制があれば、さらにより良いターミナルケア体制が整備されると思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画の中に急変時の対応・緊急時の対応について盛り込み勉強会を行っている。利用者の予想される急変については、スタッフの中で情報を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼夜想定避難誘導訓練を実施している。1回は消防署員による初期消火、消火器の使用方法、119番通報について指導、講習を受けている。2回目は防火管理者が行う又地域の防災訓練に参加して協力体制を築いている。	○災害対策は、消防計画に基づいて、年2回防災訓練が実施されていました。訓練には、地元の消防署職員の立ち合い指導もあり、特に夜間の避難訓練は、近隣地域住民にも応援協力を依頼して行われていました。	○近年は災害が多く発生する傾向があり、災害時に備えた備蓄体制をより充実したものにすることを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が人生の先輩であることを忘れずに、笑顔と礼節のある暮らし、誰かれなく公平な対応を大事として一人ひとりの表情・目を見ながら丁寧に接する事に心掛け、排泄、入浴の時などプライバシー・プライドを傷つけない言葉かけ等に配慮している。	○「利用者の個性を尊重」という基本理念と「自己選択・決定を最大限尊重」という運営方針に基づいて、利用者一人ひとりを尊重し、受容する仕組みが組織全体として機能していました。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を大切にいつも、声掛けや会話をしながら、伺い希望があれば無理のない範囲で対応する。「はじめに利用者有りき」は常に職員は意識をもって努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日一日の体調や様子を伺い見守りのもと、その日を穏やかに安心して過ごしたいだけ様々に支援をしている。「だらしなくていい」「ゆっくりでいい」「出来なくていい」「わがままでいい」がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの衣類等は自分で選んでいただくようお願いし本人の意向を大切にいつも清潔である事に支援している。2ヶ月ごとの訪問理美容やレクリエーションではマニキュアなども楽しんでいる。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表には出来るだけ利用者の希望を反映させる様努めている、食事の準備からかたづけ迄を利用者の力量に合わせて、支援し見守っている。自発的に手伝ってくださる方もあり職員と一緒に楽しんでいる状況もある。	○利用者は、自力食事摂取ができる方が比較的多く、職員スタッフは必要以上の介入をすることもなく、見守りやそっと声掛け支援を行っていました。食事時間の中で童謡や演歌のBGMが穏やかに流れ、心地よい生活空間が創られていました。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの希望や状態に合わせて、食事の際に摂取量、水分量の確認をして、必要に応じてチェック表に記入をし、経過観察をし食事形態や盛り付けにも工夫をしたり配慮している。	

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け誘導して、口腔ケアに付き添い見守りのもとで実施している、なるべく本人の意思や意欲を取り入れたケアを行っている。家族の希望もあり歯科衛生士の口腔ケアが入っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を元に一人ひとりの排泄パターンを把握する様に支援をしている。「出来るだけトイレの排泄を目標として」タイミングを見て声掛けしている。	○トイレは各ユニットに3ヶ所設置されており、それぞれの各居室からも最短距離に配置されていました。「出来るだけトイレでの排せつ」を目標にしており、日常的に、ほとんどの利用者の方がトイレでの排せつが行われていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用しながら、便秘予防に食材の工夫を取り入れたり、適度な運動歩行訓練、マッサージを行う。必要に応じて医師に相談して下剤服用などで排便コントロールを取り入れる事も有る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望確認しながら、入浴は一週間に最低2回以上は利用出来るように支援、健康状態や精神的な面も見極めて入浴支援をしている。ご利用者にとってはスタッフとの会話を楽しむ寛ぎの場にもなっている。	○浴室は、足を伸ばして、ゆったり入れる広さの浴槽が設置されていました。入浴は、週2回以上利用者の健康状態に応じ実施され、できるだけ一般家庭の入浴時間に近い夕方4時頃に行なわれていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後の就寝時間は、自由で一人ひとりの思いで居室に戻り休まれる、特に夜間不眠の方は一人ひとりの睡眠時間に合わせて、室温や寝具の整理、照明、また日中起きている工夫等改善について話し合い安眠に繋げるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に変更などあった場合は医院からの説明と、薬の説明書を参考に理解の徹底を図っている。薬係を主に申し送りノートを活用し誤薬の無いように対応している。服薬時、時間と名前を声を出して確認している。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日を通して食器拭きや洗濯物を畳むなど、それぞれの役割を持って生活出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望も聞きながら、外出・ドライブ、季節のお花見・紅葉狩りを楽しみに出掛け外食してラーメン・お寿司を召し上がり好評でした。家族と本人との外出も出来る様に面会時に働き掛けている。	○事業所の周囲敷地が、旧スーパーの駐車場跡地ということで、玄関を一步外に出れば、安全な散策を楽しみ、雄大な北アルプスを日常的に眺めて過ごせる環境がありました。また、定期的に外食やお花見を楽しむ機会が提供されていました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお小遣いとして、持つて来て頂いている。お小遣いは基本的に施設で預かっていて、本人・家族の希望で使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている利用者もあり家族の所に電話したいという希望があれば自由に電話が出来る様にしている。年末には年賀状を職員と一緒に書いて頂くよう勧めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年間を通じて快適な室温と自然の電灯色にこだわりを持ち、目に優しい照明、夜間照明は転倒回避に繋がっている。ホールには季節感を取り入れた塗り絵、折り紙、写真を飾っている。中庭(デッキ)ではアウトドアを楽しむ機会がある。	○各ユニットの共用ホールは、食堂、調理場、居間等があり、適切な広さのウッドデッキの中庭に面していて、自然の採光を感じながら、ゆったり過ごせる空間になっています。また、廊下は回廊式になっていて、利用者の方は建物内でも散歩を楽しむことができる設計となっていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居室では、ひとりになれる空間を提供して、ホールでは馴染みの関係が出来る様に、食事の席の配慮をしたりと、思いをお伺いして楽しい雰囲気作りをしている。	○各ユニットの共有ホールは、同様な設備で広さも十分にあり、すっきりした空間の中で利用者の方は、思い思いの過ごし方ができる空間と雰囲気が整備されていました。	

54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、入居前の生活の継続性を大切にし、馴染みのある家具・写真・置物・ぬいぐるみ等を持ち込み自由に配置して頂いている。</p>	<p>○事業所では、それぞれの居室には、入居前の馴染みの家具や品物を持ち込むことを積極的に進めていました。昼間はほとんどの利用者の方は、ホールで過ごされていました。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>	<p>共用部分にはなるべく障害物になる物は置かないようにして、自室の入り口には本人の書いた絵・写真で分かり易い工夫をして、トイレ・浴室には大きな文字で明記している。</p>		

## 自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる			

6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている			

12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			

18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		

30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている			

## IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている			

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			

54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している			